
無題2

ぐるぐる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題2

【Nコード】

N4204I

【作者名】

ぐるぐる

【あらすじ】

大切にしていたモノが急に無くなってしまったら。

悲しみ、想い出、混乱……。

いろいろなモノが溢れてくると思います。

でも、ソレは確かに在って、大切なモノを遺してくれたんだ、という事に気付いて欲しい。

それを詩というカタチに表しました。

（前書き）

大切な人がいなくなったら、人は皆どういう風に想うのか。

また、どういった行動に出るのか。

そんなうたです。

人間は結局皆一人だって。

そんなことないよ。

僕は言った。

キミは寂しそうな笑顔で振り向いた。

でも、何も言わずに歩くのを再開した。

夕焼け色に染まる道。

陽気な子供達の声。

僕の三步前を歩くキミ。

普段頼もしいその背中が、とても小さく、儚く見えた。

よく笑うキミ。

泣き虫なキミ。

怒りっぽいキミ。

そんなキミはもう見れない。

一緒に居ることは出来ない。

堪えれそうにないよ。

頭がおかしくなりそうだ。

テーブルの上にはキミが残したオレンジジュース。

あの時のキミの声が

キミの涙が

玄関の扉の閉まる音が今でも鮮明に甦ってくるよ。

その度に想う。

自分を閉じ込めて置けばよかったと。

口をガムテープで塞いで

両手足をロープで縛って

金庫にでも入れておけば良かったんだ。

夕焼け色に染まる道。

陽気な子供達の声。

三步前には誰もいない。

でも、僕の中には確かにそれが在り続けている。

小さくて、ほんのり温かい。

それが何なのかは解らないけど。

もう目の前には冬が来ている。

今年は冷えるらしいね。

そうだ。

温かいジャケットを買おう。

キミが寒くて震えないように。

クリスマスにはキミが好きだったイチゴのショートケーキを買おう。

キミを満たすために。

新しい彼女を作ろう。

キミが安心して逝けるように。

キミの微笑みを

もう一度・・・。

（後書き）

こんなチープな詩を読んで頂き有難うございます。

皆さんには良い方向にベクトルが向いて頂けたらと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4204i/>

無題2

2010年10月28日08時00分発行